

めざす子ども像

人との出会いを通して

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

多様な世代の地域住民の絆がつながるようにする。
安心でのびのびと自分を発揮できる環境をつくる。
顔が見え、声を掛け合える地域を目指し、それぞれの防災防災意識を高める。
次世代を担う若者を育む環境をつくる。

【防災取組事業】

12月9日（土）公民館と共催で「さわやかフェス 2023」開催しました。

今年度は、地域の方々にチラシ等で広報し人数制限せず午前中で開催でした。自主防災の方々や消防のご協力を得て中学生が中心に活動しました。



「起震車」「暗闇体験」「火起こし」「テントたて」「防災食」「柿しぶクッキー等販売」「ユニセフ募金活動」とそれぞれのワークショップを中学生が担当し大人が援助する形でした。生徒は地域の来場者に笑顔で対応し会場を盛り上げてくれました。今年度は地域キャラクターの「ぬりえ」を作り公民館で飾ってもらい、小さい子も楽しめる工夫をしました。半日のイベントでしたがスタッフ中学生には、防災知

識を学びと接客等キャリア学習を兼ねた地域の方々交流の場になりました。

事後アンケートには「楽しかった」「貴重な体験ができた」「地震は怖かった、減災のために備えたい」「最初と最後で印象の違うイベントだった。来てよかった」「楽しみながら防災について学べるいい企画だと思います」など、参加者の声がありました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍からの再スタートとして昨年と同じワークショップ開催方法でした。開催までの話し合いで希薄になったそれぞれとの繋がりを取り戻し、協力しあって広く地域に呼びかけられるイベントになりました。

【来年度に向けて】

事業の振り返りで集客方法に課題があるようなので広報の方法も考えたいと思います。

1月に能登の震災もあり、改めて日ごろの備えについて見直しが必要かと感じるので、イベント内容も学校や地域、公民館と連携をとりさらに充実を考えています。

めざす子ども像

人との出会いを通して、

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標 多様な価値観と接する中で、自主的に行動し、地域に誇りを持ち、貢献できる生徒を育てる。仲間と積極的に学び高め合い、豊かな感性で、自分の思いを伝え、社会で自律的に生きることができる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

今年度新しい取組として二名地区自主防災防犯会、奈良市消防局と協働し1年生で防災体験学習を行いました。学習内容は起震車体験、水消火器体験等です。2年生では防災食作り体験学習を行いました。実際に体験をすることにより防災意識が高まりました。災害時、中学生が地域の担い手となるという意識も芽生えました。

毎年恒例となっている1年生パンジー植えと2年生マリーゴールド植えも地域やPTAの方々と行うことができました。今年度は新しい取組として、1年生の花植えでは参観形式で保護者の方々も一緒に花植えを行いました。保護者の皆様にも、子どもたちの生き生きと活動する学校での様子を見ていただけたことで本校の教育方針を知っていただくきっかけにもなったと思います。2年生の花植えでは技術科と学校行事を横断することで学びを深め活用することの実践にもつなげることができました。



【今年度のまとめ】

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが2類相当から5類に移行されました。このことによりコロナ禍の教訓を生かしながら行事を積極的に推進していくことが可能になりました。今年度は地域と共働して、新しい取組を模索し実現していくことができました。そして、この地域で決める学校予算事業により様々な取組が進められ、その取組が子どもたちの力となっていくことを感じる事ができた1年間でした。本当にありがとうございました。

【来年度に向けて】

これまで地域の方々と共に創り上げてきた良き伝統をしっかり継承していきたいと考えます。その上で、これまでの取組をしっかり見直しながらより良いものを創り上げていくための創意工夫を積極的に行っていきたいと思ひます。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

めざす子ども像

人との出会いを通して、

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

- ・地域の方々やゲストティーチャーの支援のもと本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる子どもを育てる。
- ・読書活動等を通して、読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・自尊感情やコミュニケーション能力を高める。

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染症が、第5類に移行されたことによって、活動方法について、地域コーディネーターと検討を重ねました。そして、子どもたちや関わっていただく方々の安全を第一にコロナ以前の活動を復活させながら進めることができました。

今年度は3年生が「藁をなう」体験をゲストティーチャーから直接学ぶ機会を設けることができ、体験から豊かな学びが生まれました。

また、コロナ禍で3年間開催できなかった「ボランティア感謝の会」を4年ぶりに開催することができ、地域の方々に子どもたちの「歌声朝の会」を参観していただきました。日頃の感謝を込めて子どもたちの手作りのプレゼントを渡すこともできました。11名のボランティアの方々が出席していただき、とても喜んでおられました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症が、第5類に移行されたことによって、子どもたちと地域の方が出会い、活動することが、少しずつ元に戻すことができ、昨年以上に子どもも大人もこの地域での存在意識を感じることができました。学校と地域が協働して、「本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる子どもを育てる。」という目標に向けて、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有できました。

【来年度に向けて】

学校と地域がねらいを共有し、協働して、本校の「めざす子ども像」「取組目標」を具現化できるように努めたいと思います。状況に応じた内容や取り組み方の改善を図って、継続可能な事業の展開を目指します。

めざす子ども像**人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども****取組目標**

見守り等に感謝する心を育て、自尊感情・地域への愛着を醸成する
地域の人と関わる活動を通して、様々な人との関わり方を学ぶ
環境整備を通して、活動の意義や自分のできることに気づき、行動する

【今年度の取組紹介】**□地域の方々との交流**

今年度も、「地域の人と関わる活動」を大切にして活動を行いました。今年度は新しく、特別支援学級の自立活動の時間を使い、地域に伝わる柿渋染めの体験を行いました。手提げかばんを柿渋で染め上げ、思い思いの模様を作っていくことができました。この活動は二名中学校区教育協議会の活動ともつながります。小学校区単体で活動するのではなく、中学校区とも連携しながら、児童にとって学びのある時間をつくっていきたいです。



特別支援学級で行った柿渋染め体験

＜今年度の事業＞

柿渋染め教室、富雄川の昔を聞く会、声楽出前教室、どんぐり教室、昔遊び教室、図書の読み聞かせ

□地域人材が学校を介してつながる

一年生は昔遊びを、地域の方々と共に行いました。その活動をする前段階で関わる団体の長と打ち合わせをしたときに、「人が足りない」という声がでました。そこで、この活動に関わってくださる方ができそうな方に声をかけてくださった結果、20人程度だった参加予定者が、50人弱まで増えました。活動中は、参加された方々も児童もとても楽しそうでした。児童の感想文はコーディネーターを介して参加された方々に回覧されました。参加された方からは「来年もぜひ参加したい」や「ほかにできることはないか」といった声が聞かれました。これらの声を次につなげられるようにしたいです。

□幼稚園・保育園との連携

今年度は、小学校区の中にある幼稚園・保育園の園児との交流も実施できました。小学校の様子を知ってもらう良い機会であるとともに、小学校1年生の児童にとっては年下の園児を迎え入れて一緒に遊ぶ貴重な機会となりました。幼稚園・保育園との連携は来年度以降も継続しておこなっていききたいです。

【今年度のまとめ】

コロナ禍後、児童の実態や必要性に応じて活動を復活させたり新設させたりすることができました。また、担い手不足ではありますが、潜在的には「学校に協力してみたい」と考えてくださっている方がまだまだいることを実感できた今年度でした。

【来年度に向けて】

小学校低学年の昔遊びや地域探検、中学年の地域の昔の様子を聞く体験など、小学校の教育課程の中には地域の方々の力を借りて学びを充実させることができる機会がたくさんあります。小学校の職員に二名小学校区地域教育協議会についてより深く知ってもらい、学習に役立ててもらえるようにしていきたいです。そして、学校に地域の方々をお招きする機会を増やし、地域の力も十分活かして児童の教育ができるような体制を作っていきたいです。

めざす子ども像

人との出会いを通して

地域に学んだことを誇れる子ども

取組目標

地域の方々とのかかわりを通して、子どもたちの興味・関心を湧かせるような活動を実施し、人とかかわることを喜び、楽しく活動する子どもの育成

【今年度の取組紹介】

◆保育支援事業 《 ミュージックケアを楽しもう 》

ゲストティーチャー（音楽療法士）に来ていただき、園児が地域の方や保護者と一緒に、ミュージックケアを楽しみました。音楽にあわせて体をタッピングしたり鳴子やきららなどの楽器を使って体全体や体の部位を動かしたり、たくさんの種類の楽器を使って合奏したりしました。動きには、静動・緩急があり、気持ちのコントロールをしたり、みんなとあわす心地よさを感じたりすることができました。

◆体験活動事業 《 園児お茶会・お茶会参観 》

講師の先生から、作法やお茶の点て方や季節のお花（生け花）について教えていただきました。毛氈が敷いてあるいつもと違う雰囲気の中、緊張しながら自分で点てたお茶は特別美味しかったようです。参観ではお家の方にお点前を見ていただき、自分で点てたお茶を振舞いました。茶道という日本古来の伝統文化に触れるとても貴重な体験になりました。



【今年度のまとめ】

- ・コロナが5類に移行したことで、ゲストティーチャーとの距離が近くなり、マスクで見えなかった表情等も見ることができ、昨年度より親しく関わることができました。
- ・在園児数が少なく、園外から来ていただくことでより多くの刺激や学びを得ることができました。
- ・地域の方々の協力を得て、様々な体験をすることで子ども達は地域の方々へ親しみを感じ、感謝の気持ちを伝えたり、自分から話しかけたりする姿がみられるようになりました。子ども達は、地域の方々の温かい心に触れ安定し、人とのかかわりを広げていくことができました。

【来年度に向けて】

来年度は閉園ということもあり、5歳児1クラスのみになってしまいますが、地域の教育力を活かした保育内容を工夫し、地域の方々や保護者の協力をいただきながら、子どもたちが感動体験できる事業を継続し進めていきたいと思います。また、各取組で学んだことや感動体験を日々の遊びの中に活かし、より保育を充実させていきたいと思います。

めざす子ども像

人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

心豊かにたくましく地域の中で生きぬく子どもの育成

【今年度の取組紹介】

《ふれあい交流事業「ぽかぽかタイム」》

今年度より地域の方と交流しふれあいを楽しめる機会として、月1回「ぽかぽかタイム」を始めました。

「今日はどんなことするのか」「〇〇さん今日も来てくれるな」と子どもたちは、地域の方と一緒に過ごすことを楽しみにしていて、当日は地域の方が読んでくださる紙芝居を見たり、折り紙や紙風船などの伝承遊びをしたりしながら遊ぶことを喜んでいました。

「紙飛行機こうやったらよく飛ぶんだって」「紙鉄砲、最初は鳴らなかったけど、地域の方と一緒にしたらできるようになった」と地域の方から教えていただいたり、励ましてくださったりすることで、子どもたちの自信にもなり、地域の方の温かさを感じ、親しみをもって関わるができる時間となっています。



《体験活動事業「こども園を飾ろう」》

「こども園を飾ろう」では、地域の方を‘お花の先生’として招き、生け花を教えてくださいました。花を生ける中で、花一本一本を大切にすることや季節や用途に合わせた花材についても教えてください、子どもたちは「いい匂いがするきれいなお花だね」「やさしく持って切るよ」と丁寧に扱いなら、花の名前、におい、形の違いなどに興味をもち、花を生ける楽しさや、花の美しさを感じていました。生けた花を園内に飾り、保護者の方や他学年の園児に見てもらうことで喜びや達成感にもつながり、豊かな体験や学びに繋がりました。



【今年度のまとめ】

今年度は、活動への制限がなくなり、子ども達の実態に合わせ、地域や他クラスと関わる機会を増やすことができました。地域の方と一緒に過ごし触れ合うことで、優しさや温かさに接し、安心感をもって関わることを積み重ねることができ、感謝や思いやりの心、コミュニケーション力を育むことに繋がったと思います。

【来年度に向けて】

今年度取り組んだ活動を、年間計画に位置付けて計画的に行うとともに、地域の教育力を活かし、子どもの様子や興味関心に応じて内容を工夫することで、さらに地域とのかかわりを深め、子どもたちが豊かな体験活動を経験できるようにしていきたいと思います。また事業についての情報発信を定期的に行いながら、園、地域、家庭の連携が密になるようにしていきたいと思います。